

**復旧工事など無災害
宮坂建設工業を表彰**

国の建設事業無災害表彰の伝達式が2日、帯広労働基準監督署で行われ、昨年の台風で被害を受けた日勝峠の復旧工事などを手がけた宮坂建設工業（帯広）に表彰状が贈られた。

同社は、日勝峠の現場で情報通信技術（ICT）を活用した無人のショベルカーなどを使い、無災害で工事を終えた。このほか同社の3事業も表彰を受けた。伝達式で菊池俊文署長から表彰状を受け取った同社の三森雅弘土木部工事課長は「日勝峠は高さ60mの斜面で作業する危険な現場だった。最新技術を取り入れ安全を保つことができた」と話した。（長谷川史子）

菊池署長から表彰状を受け取る宮坂建設工業の担当者



**宮坂建設工業に
建設無災害表彰**

帯広労働基準署が伝達式の建設事業無災害表彰の伝達式が2日、帯広労働基準監督署（菊池俊文署長）で行われた。昨夏の台風で甚大な被害を受けた日勝峠の復旧工事などを担当した宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）に、菊池署長から表彰状が贈られた。

同表彰は、全工期を通じて業務上の災害が発生しなかった事業場の功績をたたえる。1日付で厚生労働省労働基準局長が認定した。

伝達式で菊池署長は「労働使一丸で取り組んだ成果。今後も災害防止に努めてほしい」とあいさつ。日勝峠の復旧工事を担当した同社の三森雅弘土木部工事課長は「現場は爆弾でも落ちたかのような状況だった。作業員間のコミュニケーションを大切にしたい」と振り返った。同社の3事業場も表彰を受けた。（長谷川正人）

表彰状を手にする三森工事課長（右端）ら現場代理人。中央は菊池署長



宮坂建設工業4現場に 帯広労基署が無災害表彰伝達



【帯広】帯広労基署は2日、建設事業無災害表彰伝達式を開いた。宮坂建設工業（本社・帯広）が施工する4現場が対象となり、現場代理人らをとった。

それぞれの現場代理人が菊池署長（左）から賞状を受けた。60万円以上で無災害だった現場が対象となる。表彰を受けたのは、74号清水町日勝峠災復、十勝川改修統内下流河道掘削ほか、帯広郵便局模様替え、仮称・社会医療法人北斗介護老人保健施設新築の4現場。

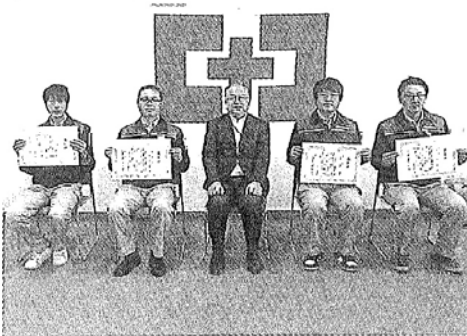
安全対策として日勝峠災復ではICT技術を搭載した重機を使用して危険箇所の無人施工を実現した。また作業員約40人にはトランシーバーを持たせて気象などの情報を全体で共有できる体制を作った。河道掘削の現場では厳冬期に1日当たり約80台のダンプが走るためCIMを使った交通シミュレーションを基に渋滞の抑制を図り交通混雑や事故を防止した。

建築工事は業務に影響しないよう工事区分を明確化したり、作業員のヒヤリハットを全体で共有式には土木部の三森雅弘工事課長ら現場代理人が出席。菊池署長は各現場での安全対策を評価し、「今後も現場一丸となつて努力してほしい」と激励した。

建設事業無災害表彰伝達授与式 優れた安全管理を評価 宮坂建設工業の4事業場に

帯広労基署

【帯広】帯広労基署は2日、帯広地方合同庁舎で建設事業無災害表彰伝達授与式を執り行った。宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）が施工した「274号清水町日勝峠災復」など4事業場が受賞。菊池俊文署長が各現場代理人に表彰状を手渡し、優れた安全管理の取組をたたえた。



対象となったのは、「274号清水町日勝峠災復」（現場代理人・三森雅弘氏）、「十勝川改修統内下流河道掘削」（同・小松弘樹氏）、「帯広郵便局模様替え」（同・晴山吉久氏）、「仮

帯広労基署

署長が「産業安全の重要性を深く認識し、職場の災害防止に不断の努力を払い、全工期を無災害で終えたことは他の模範となる」と述べ、表彰状を贈呈した。「帯広郵便局模様替え」は、昭和六十二年に竣工したSRC造地下一階地上五階の郵便局における空調設備を全面改修するもの。工期は二十七年四月二十八日から二十九年二月二十四日まで。郵便業務を行わないが、工事範囲図を作

成するなどして区分を明確化。現場代理人の晴山氏は、労働災害防止対策について「夜間作業もあったが、昼夜二交代制で労働時間の管理も徹底し、過重労働防止に努めた」と話していた。

菊池署長から各現場代理人に表彰状が贈呈された